

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年 11月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1170700163
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	岩槻ケアセンターそよ風
所在地	339-0031 さいたま市岩槻区飯塚1280-3 (電話) 048-791-7515
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年11月5日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 14 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	28,500円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (500,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,400円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名
要介護3	4 名	要介護4	6 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 58 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さいたま記念病院、南平野クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム南側の居室に沿って日当たりのよい中庭があり、利用者はその中庭を利用して日光浴や外気に触れ季節を感じることができる。ホームでは利用者が終末期を迎えた場合は、家族と主治医、ホーム側とで十分に話し合い、家族はホームに宿泊し、利用者の最期を看取ることができる。これからも終末期ケアの質の向上に努めていきたいという前向きな取り組みがみられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>市との連携については、ホームの実情をホーム側から積極的に市担当者に伝えるなど情報交換を行うことに努めている。金銭管理については、前回の指摘に基づいて改善がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は自己評価の目的を理解し、日々の実践を振り返り、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、評価結果についても職員全員に報告し、改善項目に沿って検討している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、現在の利用者の報告、納涼祭や敬老会等の行事を中心に話し合いが進められている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見や苦情等は面会時に聞く機会を設け、出された意見や苦情は職員間で早急に検討し、改善に努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りや転倒予防教室等に参加し、地域との交流を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念を「その人らしさの尊重」とし、住み慣れた地域で、その人らしく安心して生活を続けられるための支援をしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、日々のケアの実践を通して理念を共有し、理念が実践の場に反映されるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや転倒予防教室等に参加し、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価について全職員に説明し、評価の意義を理解していくように取り組んでいる。また、外部評価の結果についても全職員に報告し、改善すべきところは計画的に改善に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホーム側からの利用者の状態についての報告や行事等の報告に時間を費やしているが、参加メンバーからあまり意見が出ておらず、またその意見がホームの運営に十分に反映されていない。		運営推進会議にはそれぞれの立場の方が出席しているため、現状の問題点等について、適切なアドバイスをいただくよい機会である。委員のメンバーから意見をいただき、サービスの質の向上につなげる努力を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市にホームの実情を知ってもらえるよう、担当者と情報交換を密にすることに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	そよ風通信にて、利用者の日々の様子を知らせている。また、面会時や電話で個人の健康状態や日々の生活の様子を知らせている。金銭管理については、家族に金銭出納表を確認していただいている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時に苦情や不満、意見を職員に言っていただき、出された意見等については職員間で早急に話し合い、問題解決するように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が変わることによる利用者の不安、動揺を少なくするために、まず退職者を出さないように努めている。なお、職員の異動等の場合には、引き継ぎの時間を十分にとり、職員が交替することによる利用者の不安を少しでも軽減するよう配慮している。		
を					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームとしては、職場内外の研修になるべく多くの人に参加してほしいと考えているが、研修の参加を希望する職員が限られている状況である。		事情により研修に参加できない人のために、研修を受講した人は伝達講習会の形で学んだことを報告し、サービスの質の向上につなげていくことを期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との勉強会に参加し、相互に情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームでの新しい生活に馴染めるよう、本人が使用していた家具や好みの物等を持ち込むことができる。また、他の利用者と交流がしやすいよう、職員が声かけなどの支援をして、ホームの雰囲気に馴染めるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者に「してあげる」のではなく、本人自身でそれぞれの役割ができるように声かけや環境作りに努めている。また、日頃の会話を通して、利用者から学ぶなど、お互いに支え合う関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意向や希望等を把握するために利用者に関わる時間を多く持ち、傾聴するように心がけている。また、把握が困難な場合は、利用者を中心に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の意見や意向は介護計画に反映されているが、利用者自身の意見や意向を聞くことは難しいため、職員からの情報をもとに、できる限り本人の意向にそった介護計画を作成するよう努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じて定期的な見直しは行っており、定期的な見直し以外にも利用者の状態に変化が生じた場合には、カンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて、墓参りや通院介助及び受診の際に付き添うなど、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については今までのかかりつけ医を継続するのか、または、ホームの協力医に診てもらうのか、本人や家族の希望に応じて受診の支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、家族、主治医、ホーム側と十分に話し合いを行い、全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の実践を通して、職員は相手を傷つけるような言葉遣いや態度をとっていないか常に心がけている。また、記録の管理をしっかり行い、個人情報の保護に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿って、個々の利用者のペースで過ごしていただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者を見守りながら一緒に食事をしている。また、後片付けも一緒に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間帯を各利用者の希望に合わせている。また、バイタルのチェックをし入浴時の安全の確保に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活や現状の中から利用者が無理なくできることを見つめたり、自発的に何かをしようとしている利用者には利用者自身でできるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者から「あそこに行きたい」という希望があれば、希望に沿うように外出支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には安全面を配慮し、日中は施錠をしているが、利用者が外出を希望する場合には、玄関を開放し、利用者と職員が一緒に出かける等の支援をして、日中の施錠による圧迫感を軽減している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民と協力しながら防災訓練を実施し、避難経路を把握するなど、災害時の対策に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を把握し、記録しており、利用者一人ひとりの健康状態の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のひとつである玄関に入ると、すぐに手作りの稲荷様が飾られており、廊下や居間その他にも手作りの作品や季節の草花が飾られ、生活に潤いのある空間作りに工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からホームに家具等の持ち込みが自由なので、利用者が使い慣れた家具や自分の作品等を各居室に飾り、落ち着いた生活ができるよう工夫している。		